



# 日研生E-だより 第17号

筑波大学 日本語・日本文化学類

2022年12月27日

修了生のみなさん、お元気ですか。今回、『日研生E-だより17号』をお届けします。

2022年の後半から、やっと新型コロナウイルス感染状況が少し好転し、出入国制限もようやく緩和されました。2021年度の日研生3名は、お世話になった教職員やチューターのみなさんが見守る中で、無事に修了式を迎えました。そして、2022年度の日研生4名は、例年通り9月下旬に来日し、秋学期からキャンパスにて勉強することになりました。

## 《2021年度日本語・日本文化研修留学生の修了式》



左から：今田先生(担任教員)、高橋さん(生活チューター)、ケイミョウさん(中国/スロベニア)、クリスさん(ブラジル)、リュズさん(韓国)、根岸さん(学術チューター)、朴先生(副担任教員)

2022年度日研生の出身国は次の通りです。

出身国名	人数
カザフスタン	1名
ウズベキスタン	1名
ウクライナ	1名
ブルガリア	1名





## ■ 2021年度担任の今田水穂先生からメッセージをいただきました！

### 今田水穂先生



9月の修了式から3ヶ月が過ぎました。日研生のみなさん、お元気でお過ごしでしょうか。担任をつとめた今田です。

2021年度は韓国、中国(スロベニア)、ブラジルから3名の留学生がこのプログラムに参加しました。みなさんの留学生活に大きな影響を与えた出来事と言えば、やはり新型コロナウイルス感染症の世界的な流行でしょう。前年から世界中に流行していた感染症の影響で、みなさんは自国にいながらオンラインで授業を受けるという奇妙な状況で留学生活をスタートさせることになりました。予定より1ヶ月少し遅れて、ようやくみなさんと大学でお会いすることができましたが、その後もオンライン授業が多くて大変だったと思います。我々も、みなさんに充実した留学生活を送ってもらえるかどうか、随分心配したものです。

ですが、そういう状況の中でも、3人ともとても勉強に熱意があつて、常に高いモチベーションで授業や修了レポートに取り組んでいたことが印象に残っています。我々の心配など、まったく必要ありませんでした！年が明けてからは、いくつかの実習授業で学外に出かけたり、友達と旅行に行ったりして、活動範囲を広げていましたね。そうした経験が、日本でのよい思い出になっていけばいいなあと思います。

これからみなさんがそれぞれの国で活躍し、後に続く人たちのよい道標となることを期待しています！



## ■ 2021年度日研生に聞きました！

2022年9月に修了した日研生3名に次の質問をしたところ、全員からお返事をいただきましたのでご紹介します。

1. あなたが日本/筑波大学で1年間日研生として過ごした感想や、心に残る経験・思い出などについて教えてください。
2. あなたの帰国後の現在の様子を知らせてください。(近況報告、帰国後に日本での生活を振り返って思うこと、など)。

### チン ケイミョウ さん (中国出身、スロベニア・リュブリャナ大学在籍) CHEN, Qingmiao



1. お久しぶりです。2021年度の日研生のチン ケイミョウです。永住先のスロベニアに戻ってからはや3ヶ月が過ぎました。

留学を申し込んだのは、日本語を勉強し始めてから2年目のことでした。コロナ禍で、大学に行ったりすることができず、ずっと家でオンライン授業を受けていました。その時、日本留学についてのお知らせを見て、長い時間を家で過ごした私は、少し嫌になっていて、環境を変えたいなあと思って、留学を申し込みました。幸運なことに、無事に採用されてとても嬉しく思っています。

日本への入国制限のため、昨年の10月にプログラムが始まってからも、日本へ行くことができず、最初の2ヶ月は、オンライン授業に参加しました。日本と8時間の時差があるため、深夜に起きて授業を受けるのが辛くて、留学をやめようと思ったことが何回もありました。幸いなことに、11月の終わりに日本に行くことができました。日本は、母国の中国とは大きく異なっていないので、日本の生活に慣れるのは難しくなかったです。ただ、家族から離れて、一人暮らしするのは初めてで、私にとって、家族のみんながいるスロベニアでは経験できないことでした。





今、留學生活を思い出したら、いろいろな思い出が湧いてきました。その中で、一番心に残ったのは、関西の旅行でした。8月の終わりだったと思いますが、同じ日研生のクリスさんと飛行機で東京から大阪まで行きました。アプリで予約した民宿は京都にあるので、新幹線で京都に行きました。関西で一週間くらい過ごしました。大阪の花火大会を觀賞したり、奈良の奈良公園に行って鹿を見たり、京都の伏見稲荷大社や清水寺を参拝したりすることができて、素晴らしい経験でした。また、東北にも行きました。以前からずっと日本のまつりに関心を持っていたので、今回秋田県の竿燈まつりに参加することができてとても嬉しかったです。観覧席からまつりの様子を見るだけではなく、実際にまつりの衣装を着て、提灯を持って、長い行列と一緒に通りを練り歩きました。竿燈、その演技や太鼓の演奏などを近くから見ることができました。

留學は、楽しいことだけではなく、一年間いろいろな心配や不安もありました。留學生活の中で、最も難しかったのは、たぶん修了レポートのことだと思います。



ほうじ茶作りを体験@千葉県立房総のむら



日研担任であり修了レポートで大変お世話になった今田水穂先生。

でも、修了レポートがあってよかったと思います。なぜならば、筑波大学でレポートを執筆した間に学んだことが今の卒業論文を書くことに役に立っているからです。それから、この話ですが、私は料理が本当に苦手で、毎日何を作ったらいいか、よく悩みました…コックさんの娘なのにね(笑)。

2. スロベニア帰国後、10月の下旬、筑波大学で取得した単位を振り替えるため、日本語のテストを受けました。いい成績が取れました。今、リュブリャナ大学の3年生で、卒業論文を書かなければなりません。テーマはもう決まっていますが、まだ書き始めてはいません。授業もありますし、週末はレストランでアルバイトをしていますので、毎日忙しく過ごしています。将来の予定は、まだ分かりませんが、たぶん大学院に進学するだろうと思います。



**小倉 クリスチエーレ 千恵子 さん (ブラジル出身、パラナ連邦大学在籍) OGURA, Cristhielle Tiekó**



1. 日本への入国制限のため、私が母国のブラジルにいたまま、2021年10月1日にオンライン授業が始まって、日本に行けるかどうか不安いっぱいの日々でした。ブラジルと日本の時差が大きかったので、状況があのまま続けば、最後まで勉強できるか自信がありませんでした。幸い、2021年11月19日にやっと日本に行くことができました。しかし、一人で海外に行ったことがない私は、もちろん日本に行くのも初めてだったので、不安はありましたが新しいことばかりで新鮮でした。その上、コロナ禍の時期だったため、初めての異国での一人暮らしは感動と緊張でいっぱいでした。感染者数が減ったり増えたり、状況は常に変化し、何が起ころか予測できませんでした。行かなかったところや出来なかったこともたくさんありました。

それでも、後悔の気持ちは全くなくて、筑波大学で日研生として過ごした時間はとても良い経験になったと思います。ブラジルとは非常に異なる日本文化を肌感じられたのもすごく興味深かったです。つくば市に暮らし、筑波大学で勉強した私は、学生としても人としても大きく成長しました。もちろん、筑波大学の皆様にはいつも助けてもらいました。生活チューターのおかげで、日本での最初の時期の不安が和らぎましたので、感謝しかありません。授業は難しかったですが、先生方がいつも丁



大変お世話になった生活チューターの木次優衣さん。



寧に教えてくださって、自分の日本語の能力がすごく上達したと感じました。修了レポートを書くのが最も大変でしたが、指導教員や学術チューターのおかげで、書く過程で多くのことを学びました。

コロナ禍でも、多くの所に旅行することができました。一番心に残ったのは、「日本語・日本文化共同研究Ⅲ」の授業で、竿燈まつりに参加したことです。それまで日本のお祭りに行ったことがありませんでした。初めての祭りがこんなに大きな祭りになるとは思いませんでした。秋田県も素晴らしいところで、食べ物も美味しいです。

秋田からつくばに帰る時、初めて新幹線に乗りました。コロナ禍による制限は多々あるのにも関わらず、日本のどこに行ってもたくさんの楽しい思い出がありました。最後の日まで日本での生活を楽しまれたと思いました。筑波大学の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

2. 現在、私はパラナ連邦大学で勉強を続けています。最近、フリーランサーとして日本語の翻訳の仕事をするようになりました。ブラジルに戻って以来、時々日本が恋しいです。特に日本の食べ物です。同時に、ブラジルのことを更に好きになりました。来年、日本語能力試験のN1を受けたいと思うので、そのための勉強をしっかりとやりたいです。機会があれば、もう一度日本に行って、新型コロナ対策の制限がない日本も知りたいです。



修了レポートを指導して下さった渡部宏樹先生(左)と学術チューターの谷口璃夏さん(右)。



## リュ スワン さん (韓国出身、威徳大学在籍) RYU, Seungwan



1. はじめに、私が筑波大学で1年間の留学生活において最も興味深いと感じたのは、授業を含めた学習環境と学生支援でした。

まず、授業を含めた学習環境ですが、自分が現在勉強している大学とはやや異なる環境での授業に興味深く感じました。少人数の学生と先生が一つの授業を形成する点では、授業に関する理解向上と集中力強化に大変影響しています。このような点は、理解を深めることに役に立ったと思います。また、学外研修では、日本の文化を自らが経験し、それに関してどのような印象を持っているのかに関するレポート作成は、単純な経験に止まらず、こ

のような学習によって自分が何を学んだのかを確認できたチャンスとなりました。そして、修了レポートの作成も自分の成長に影響したと思います。もちろん、慣れない環境での研究は、難しい点があります。しかし、このようなデメリットを乗り越えて研究を行い、それを指導教員と共有することによって、単純な調査に止まらず知識をより深める点では自分にとってポジティブな影響をもたらしました。

次に、学生支援です。同じ大学生である日本人のチューターのおかげで、慣れない日本での生活からの困難を克服できました。年齢的に少し差がありましたが、チューターになって下さった学類生の親切さをご配慮のおかげで、留学生生活を満喫できました。どうもありがとうございました。

2. 現在、4年生として在学中で、来年の卒業に向けて日本の就職に関して調査中です。

実は、2022年の11月11日から13日まで、在籍している威徳大学日本語文化学科の学生8名と一緒に、文化交流などを目的に大分県日田市を訪問しました。まさかこんなに早く日本に戻れることができるとは思っていなかったもので、その様子をぜひみなさんと共有させていただきたいと思いま



兄弟のように仲良くしてくださった生活チューターの宮澤有伸さん。





大変尊敬している修了レポートの指導教員の谷口孝介先生。

す。

初日に、日田市の天瀬町に訪問し豊かな日田市の自然を体験した後、市役所を訪問し日田市長と対面にて会談し、メディアのインタビュー要請にも誠実に対応しました。夜、天瀬町にある温泉旅館で露天風呂を満喫しました。二日目に、日田市の有名観光スポットである「アニメ進撃の巨人」関連の観光地を次々と訪問し、進撃の巨人誕生のエピソードなどに関する説明を聞きました。夜、日田市の祭りに参加し、美しい夜景と賑やかな日田市の雰囲気を味わいました。祭り体験後、研修関係者全員と飲み会をしました。3日目は、「日田市過疎地域持続的発展計画」の取り組みについて勉強しました。その後、豆田町で日本の着物を着て、古い町を歩きました。

町歩き後は、市民との交流会に参加し、新聞社のインタビュー要請にも対応しました。最後に日本の焼き肉を体験した後で、韓国に帰国しました。大変実り多き3日間でした。日田市のみなさん、どうもありがとうございました。

帰国後、普段の生活に戻って、卒業のための単位取得や就職活動に励む日々を過ごしています。またいつか日本に行けることを楽しみにしています。



## ■ 思い出のショット

2021年12月10日 日研生と関連教職員との初顔合わせ





共に一年間勉強した同期の日研生のみなさん



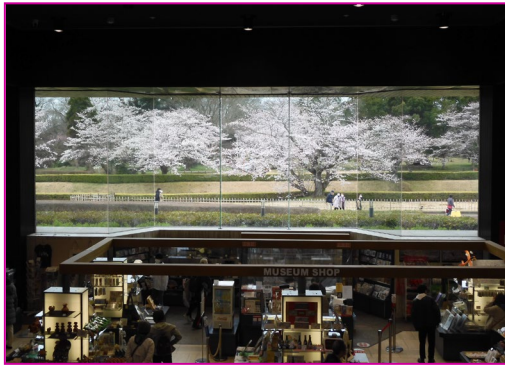


2022年1月23日 「日本語・日本文化実験実習」の学外研修旅行



2022年3月29日 他プログラムとの合同研修旅行





**【編集後記】 2022 年 12 月 27 日**

2022 年の春に、日本語・日本文化学類の別のプログラムの関係で、編集者はみなさんが毎年「日本語・日本文化実験実習」の授業で見学した「国立歴史民俗博物館」(通称歴博)を訪れる機会がありました。エントランスホールの巨大なガラスから眺めた桜の木のあまりの美しさに大いに感動しました。みなさんも、ぜひいつか春の日に足を運んでその目でお確かめください！

「日研生 E-だより」も第 17 号になりました。皆さんからののお便りをお待ちしております。

筑波大学 日本語・日本文化学類

HP <http://www.japanese.tsukuba.ac.jp>

Twitter @Nichinichi

Facebook <http://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi>



日本語・日本文化学類長室

[nichi2\\_office@un.tsukuba.ac.jp](mailto:nichi2_office@un.tsukuba.ac.jp)

※メールアドレスが変更になった際にはお知らせください。